



# CHAPTER 28

## Cisco DCNM-LAN サーバの起動と停止

ここでは、Cisco Data Center Network Manager for LAN (DCNM-LAN) サーバを起動および停止する方法について説明します。

この章の内容は、次のとおりです。

- 「DCNM-LAN サーバの起動と停止の概要」 (P.28-1)
- 「Cisco DCNM-LAN サーバの起動と停止のライセンス要件」 (P.28-1)
- 「DCNM-LAN サーバの起動」 (P.28-1)
- 「DCNM-LAN サーバの停止」 (P.28-5)
- 「関連資料」 (P.28-8)
- 「DCNM-LAN サーバの起動と停止の機能の履歴」 (P.28-9)

### DCNM-LAN サーバの起動と停止の概要

DCNM-LAN サーバの起動と停止は、データベースのバックアップ、クリーンアップ、復元などのサーバメンテナンスが必要です。クラスタサーバ配置では、DCNM-LAN サーバを起動する順序によって、どのサーバがマスターサーバになるかが決まります。ここでは、単一サーバ配置とクラスタサーバ配置の両方について DCNM-LAN サーバの起動と停止の詳しい手順を説明します。

### Cisco DCNM-LAN サーバの起動と停止のライセンス要件

次の表に、この機能のライセンス要件を示します。

製品	ライセンス要件
Cisco DCNM-LAN	Cisco DCNM-LAN サーバの起動と停止にライセンスは必要ありません。ライセンスパッケージに含まれていない機能は Cisco DCNM-LAN にバンドルされており、無料で提供されます。Cisco DCNM LAN エンタープライズ ライセンスの取得とインストールの詳細については、『Cisco DCNM Installation and Licensing Guide, Release 5.x』を参照してください。

### DCNM-LAN サーバの起動

ここでは、次の内容について説明します。

- 「単一の DCNM-LAN サーバの起動」 (P.28-2)
- 「DCNM-LAN サーバ クラスタの起動」 (P.28-3)

## 単一の DCNM-LAN サーバの起動

単一の DCNM-LAN サーバを起動できます。単一の DCNM-LAN サーバを起動する手順は、システムで使用されるオペレーティングシステムによって異なります。サポートされる Microsoft Windows Server オペレーティングシステムと Red Hat Enterprise Linux (RHEL) オペレーティングシステムについて次に説明します。

- 「単一の DCNM-LAN サーバ (Microsoft Windows Server) の起動」 (P.28-2)
- 「単一の DCNM-LAN サーバ (RHEL) の起動」 (P.28-2)

### 単一の DCNM-LAN サーバ (Microsoft Windows Server) の起動

Microsoft Windows Server を実行するサーバシステムでは、Windows サービスを介して、または [Start DCNM-LAN Server] アイコンをクリックして、DCNM-LAN サーバを起動できます。

#### はじめる前に

DCNM-LAN サーバをインストールしておく必要があります。

サーバクラスタを起動している場合は、正しい順序でサーバを起動してください。詳細については、「DCNM-LAN サーバ クラスタの起動」 (P.28-3) を参照してください。

#### 手順の詳細

- 
- ステップ 1** [Control Panel] ウィンドウを開き、[Administrative Tools] > [Services] の順に選択します。  
[Services] ウィンドウが開きます。
- ステップ 2** [Cisco DCNM Server] を右クリックして、[Start] を選択します。



**(注)** または、[Start] > [All Programs] > [Cisco DCNM Server] > [Start DCNM Server] の順に選択します。ただし、ショートカットの場所は、DCNM-LAN サーバをインストールしたときの選択内容によって異なります。

---

DCNM-LAN サーバが起動している間、スプラッシュ画面が開きます。DCNM-LAN サーバが実行されると、この画面は閉じます。

---

### 単一の DCNM-LAN サーバ (RHEL) の起動

RHEL を実行するサーバシステムでは、Start\_DCNM\_LAN\_Server スクリプトで DCNM-LAN サーバを起動できます。このスクリプトはホームフォルダ内か、Cisco DCNM-LAN のインストール時にリンクフォルダの設定で指定したフォルダ内にあります。



**(注)** Start\_DCNM\_LAN\_Server は、/usr/local/Cisco/dcm/dcnm/bin/startdcnm.sh を起動します。

---

## はじめる前に

DCNM-LAN サーバをインストールする必要があります。

サーバクラスタを起動している場合は、正しい順序でサーバを起動してください。詳細については、「[DCNM-LAN サーバ クラスタの起動](#)」(P.28-3) を参照してください。

## 手順の詳細

---

**ステップ 1** `Start_DCNM_LAN_Server` スクリプトを使用して、RHEL オペレーティング システム上でサーバを起動します。

DCNM-LAN サーバのサーバ コンソール ウィンドウが開き、サーバ起動時に実行されるプロセスが表示されます。サーバが実行されると、「Started in Xm:XXs:XXXms」メッセージが表示されます。

---

## DCNM-LAN サーバ クラスタの起動

セカンダリ サーバのオペレーティング システムに応じて、DCNM-LAN サーバの起動には、Windows GUI、CLI、または DCNM Install Manager ツールを使用できます。RHEL が動作しているセカンダリ サーバでは、CLI または DCNM Install Manager ツールを使用できます。Microsoft Windows が動作しているセカンダリ サーバの場合、DCNM-LAN サーバは Windows GUI で起動できます。

## Windows GUI または RHEL CLI を使用した起動

DCNM-LAN サーバ クラスタを起動するときは、各サーバを 1 台ずつ起動する必要があります。サーバ起動の順序が重要です。起動時刻の最も古いサーバが、サーバ クラスタでマスター サーバ ロールを実行します。

## はじめる前に

プライマリ インストール サーバをマスター サーバとして使用することを推奨します。クラスタ サーバ環境の配置の詳細については、『*Cisco DCNM Installation and Licensing Guide, Release 5.x*』を参照してください。

クラスタ内で実行しているサーバがある場合は、そのサーバを停止してからクラスタを起動します。どのサーバをマスター サーバにするかを制御するには、他のサーバよりも先にマスター サーバを起動する必要があります。詳細については、「[DCNM-LAN サーバの停止](#)」(P.28-5) を参照してください。

## 手順の詳細

---

**ステップ 1** クラスタのマスター サーバにするサーバを起動します。これは、該当するオペレーティング システムの単一の DCNM-LAN サーバを起動するための次の手順に従って行います。

- 「[単一の DCNM-LAN サーバ \(Microsoft Windows Server\) の起動](#)」(P.28-2)
- 「[単一の DCNM-LAN サーバ \(RHEL\) の起動](#)」(P.28-2)

**ステップ 2** マスター サーバが起動を終了するまで待機します。

**ステップ 3** クラスタ内の残りのサーバを 1 台ずつ起動します。1 台のサーバを起動したら、少なくとも 1 分間待ってから次のサーバを起動します。このように遅らせることで、サーバ クラスタが早く安定します。

サーバごとに、該当するオペレーティング システムの単一の DCNM-LAN サーバを起動する手順は、次のとおりです。

- 「単一の DCNM-LAN サーバ (Microsoft Windows Server) の起動」 (P.28-2)
- 「単一の DCNM-LAN サーバ (RHEL) の起動」 (P.28-2)

## Install Manager を使用した起動

DCNM Install Manager は、Linux が動作するサーバ用の GUI ツールです。セカンダリ サーバ (リモート ノード) 上でのサイレント モード操作の実行を支援するように設計されています。



(注)

DCNM Install Manager は、Windows サーバをサポートしていません。

### 手順の詳細

**ステップ 1** Install Manager にアクセスするには、`dcnm-install-manager.sh` ファイルの場所 (DCNM-LAN サーバがインストールされた `bin` フォルダ内) に移動します。

Linux が動作しているサーバの場合、デフォルトの `bin` フォルダは、`/usr/local/Cisco/dcm/dcnm/bin` です。

**ステップ 2** `dcnm-install-manager.sh` ファイルをダブルクリックして、Install Manager を起動します。

**ステップ 3** ツールバーで、Install Manager GUI の上部付近にある [New] アイコンをセカンダリ サーバの台数と同じ回数だけクリックします。

[New] アイコンがクリックされるたびに、[Server Nodes] のリスト内に新しい行が作成されます。



(注)

ツールバーで、[Delete] アイコンをクリックすると、[Server Nodes] のリスト内で選択されている行が削除されます。このステップでは、クラスタ サーバ環境からセカンダリ サーバは削除されません。

**ステップ 4** [Server Nodes] のリスト内でそれぞれ 1 行で表されている各セカンダリ サーバについて、次を入力します。

- [Server Name/IP Address] フィールドに、サーバ名または IP アドレス。
- [Protocol] フィールドに、接続に使用されるプロトコル。  
このプロトコルは Telnet または SSH のいずれかです。
- [User Credentials] フィールドに、セカンダリ サーバへの接続に使用されるユーザ クレデンシャル (ユーザ ID とパスワード)。

このユーザ クレデンシャルは、サーバへの SSH 接続に使用されます。サーバへの Telnet 接続には、ユーザ クレデンシャルは必要ありません。

別の方法として、GUI の [Default Credentials] セクションでクレデンシャルを入力することにより、デフォルト ユーザ クレデンシャルを設定することもできます。このデフォルト クレデンシャルは、[User Credential] フィールドが空白のときに使用されます。

- (任意) [Comments] フィールドに、セカンダリ サーバを識別する際に役立つコメント。

[Server Nodes] のリスト内の [Last Action Status] 列には、最後に実行された操作の成功または失敗ステータスが示されます。[Last Action Status] の [+] アイコンをクリックすると、表示が展開され、サーバに対して実行された操作のログがすべて表示されます。

- ステップ 5** [Server Nodes] のリスト内で、起動するセカンダリ サーバを選択します。
- ステップ 6** ツールバーで、[Verify] アイコンをクリックして、選択したセカンダリ サーバへの接続を確認します。接続に関する問題がある場合は、先に進む前に修正します。
- ステップ 7** ツールバーで、[Start] アイコンをクリックして、選択したセカンダリ サーバを起動します。



(注) Install Manager はスタンドアロン アプリケーションです。指定された設定は保存されず、永続的ではありません。Install Manager GUI を閉じると、設定は失われます。

## DCNM-LAN サーバの停止

ここでは、次の内容について説明します。

- 「[単一の DCNM-LAN サーバの停止](#)」 (P.28-5)
- 「[DCNM-LAN サーバ クラスタの停止](#)」 (P.28-6)

### 単一の DCNM-LAN サーバの停止

単一の DCNM-LAN サーバを停止できます。

単一の DCNM-LAN サーバを停止する手順は、システムで使用されるオペレーティング システムによって異なります。サポートされる Microsoft Windows Server オペレーティング システムと RHEL オペレーティング システムについて次に説明します。

- 「[単一の DCNM-LAN サーバ \(Microsoft Windows Server\) の停止](#)」 (P.28-5)
- 「[単一の DCNM-LAN サーバ \(RHEL\) の停止](#)」 (P.28-6)

### 単一の DCNM-LAN サーバ (Microsoft Windows Server) の停止

Microsoft Windows Server を実行するサーバ システムでは、Windows サービスを介して、または [Stop DCNM Server] アイコンをクリックして、DCNM-LAN サーバを停止できます。

#### 手順の詳細

- ステップ 1** [Control Panel] ウィンドウを開き、[Administrative Tools] > [Services] の順に選択します。ウィンドウが開き、Windows サービスのリストが表示されます。
- ステップ 2** [Cisco DCNM Server] を右クリックして、[Stop] を選択します。



(注) または、[Start] > [All Programs] > [Cisco DCNM Server] > [Stop DCNM Server] の順に選択します。ただし、ショートカットの場所は、DCNM-LAN サーバをインストールしたときの選択内容によって異なります。

DCNM-LAN サーバのシャットダウン中は、スプラッシュ画面が表示されます。DCNM-LAN サーバが停止すると、スプラッシュ画面は閉じます。

## 単一の DCNM-LAN サーバ (RHEL) の停止

RHEL を実行するサーバシステムでは、`Stop_DCNM_LAN_Server` スクリプトで DCNM-LAN サーバを停止できます。このスクリプトはホームフォルダ内か、Cisco DCNM-LAN のインストール時にリンクフォルダの設定で指定したフォルダ内にあります。



(注)

`Stop_DCNM_LAN_Server` は、`/usr/local/Cisco/dcm/dcnm/bin/stopdcnm.sh` を起動します。

### 手順の詳細

**ステップ 1** `Stop_DCNM_LAN_Server` スクリプトを使用して、RHEL オペレーティングシステム上のサーバを停止します。

DCNM-LAN サーバのサーバ コンソール ウィンドウが開き、サーバ停止時に実行されるプロセスが表示されます。サーバが停止すると、「Stopped at Xm:XXs:XXXms」メッセージが表示されます。

## DCNM-LAN サーバ クラスタの停止

セカンダリ サーバのオペレーティングシステムに応じて、DCNM-LAN サーバの停止には、CLI または DCNM Install Manager ツールを使用できます。RHEL が動作しているセカンダリ サーバでは、CLI または DCNM Install Manager ツールを使用できます。Microsoft Windows が動作しているセカンダリ サーバの場合、DCNM-LAN サーバは CLI で停止できます。

### CLI を使用した停止

クラスタ サーバ DCNM-LAN 配置の場合、`stop-dcnm-cluster` スクリプトを使用してクラスタ内のすべてのサーバを停止できます。

#### はじめる前に

DCNM-LAN サーバ クラスタ内でどのサーバが現在のマスター サーバであるかを確認してください。これはクラスタ管理機能を使って確認できます。詳細については、「[サーバ情報の表示](#)」(P.22-4) を参照してください。

### 手順の詳細

**ステップ 1** マスター サーバで、コマンドプロンプトにアクセスします。

**ステップ 2** 次のように `cd` コマンドを使用して、ディレクトリを Cisco DCNM インストールディレクトリにある `bin` ディレクトリに変更します。

```
cd path
```

ここで、*path* は、bin ディレクトリへの相対パスまたは絶対パスです。Microsoft Windows では、Cisco DCNM bin ディレクトリのデフォルトパスは C:\Program Files\Cisco Systems\dcm\dcnm\bin です。RHEL の場合、bin ディレクトリへのデフォルトパスは /usr/local/cisco/dcm/dcnm/bin です。

**ステップ 3 stop-dcnm-cluster** スクリプトを実行します。スクリプト名は、次の表に示すようにサーバオペレーティングシステムによって異なります。

サーバオペレーティングシステム	DCNM クラスタ停止スクリプト
Microsoft Windows	stop-dcnm-cluster.bat
Linux	stop-dcnm-cluster.sh

このスクリプトにより、クラスタ内の各 DCNM-LAN サーバが停止を指示されます。

## 例

次の Microsoft Windows サーバの例は、DCNM-LAN サーバ クラスタを停止する方法を示しています。DCNM-LAN はデフォルトディレクトリにインストールされています。

```
C:\Documents and Settings\Administrator>cd "C:\Program Files\Cisco Systems\dcm\dcnm\bin"

C:\Program Files\Cisco Systems\dcm\dcnm\bin>stop-dcnm-cluster.bat

C:\Program Files\Cisco Systems\dcm\dcnm\bin>set JAVA_HOME=C:\Program Files\Cisco Systems\dcm\java\jre1.5

C:\Program Files\Cisco Systems\dcm\dcnm\bin>"C:\Program Files\Cisco Systems\dcm\jboss-4.2.2.GA\bin\twiddle.bat" -s 172.28.254.254:1099 invoke "com.cisco.dcbu.dcm:service=ClusterServerInfo" stopServerInstancesInCluster 10
Shutdown Triggered for all Servers Successfully
C:\Program Files\Cisco Systems\dcm\dcnm\bin>
```

## Install Manager を使用した停止

Cisco DCNM Install Manager は、Linux が動作するサーバ用の GUI ツールです。セカンダリサーバ（リモート ノード）上でのサイレントモード操作の実行を支援するように設計されています。



(注) Cisco DCNM Install Manager は、Windows サーバをサポートしていません。

### 手順の詳細

- ステップ 1** Install Manager にアクセスするには、dcnm-install-manager.sh ファイルの場所（DCNM-LAN サーバがインストールされた bin フォルダ内）に移動します。
- Linux が動作しているサーバの場合、デフォルトの bin フォルダは、/usr/local/Cisco/dcm/dcnm/bin です。
- ステップ 2** dcnm-install-manager.sh ファイルをダブルクリックして、Install Manager を起動します。
- ステップ 3** ツールバーで、Install Manager GUI の上部付近にある [New] アイコンをセカンダリサーバの台数と同じ回数だけクリックします。

[New] アイコンがクリックされるたびに、[Server Nodes] のリスト内に新しい行が作成されます。



(注) ツールバーで、[Delete] アイコンをクリックすると、[Server Nodes] のリスト内で選択されている行が削除されます。このステップでは、クラスタ サーバ環境からセカンダリ サーバは削除されません。

**ステップ 4** [Server Nodes] のリスト内でそれぞれ 1 行で表されている各セカンダリ サーバについて、次を入力します。

- [Server Name/IP Address] フィールドに、サーバ名または IP アドレス。
- [Protocol] フィールドに、接続に使用されるプロトコル。  
このプロトコルは Telnet または SSH のいずれかです。
- [User Credentials] フィールドに、セカンダリ サーバへの接続に使用されるユーザ クレデンシャル (ユーザ ID とパスワード)。  
このユーザ クレデンシャルは、サーバへの SSH 接続に使用されます。サーバへの Telnet 接続には、ユーザ クレデンシャルは必要ありません。  
別の方法として、GUI の [Default Credentials] セクションでクレデンシャルを入力することにより、デフォルト ユーザ クレデンシャルを設定することもできます。このデフォルト クレデンシャルは、[User Credential] フィールドが空白のときに使用されます。
- (任意) [Comments] フィールドに、セカンダリ サーバを識別する際に役立つコメント。

[Server Nodes] のリスト内の [Last Action Status] 列には、最後に実行された操作の成功または失敗ステータスが示されます。[Last Action Status] の [+] アイコンをクリックすると、表示が展開され、サーバに対して実行された操作のログがすべて表示されます。

**ステップ 5** [Server Nodes] のリスト内で、停止するセカンダリ サーバを選択します。

**ステップ 6** ツールバーで、[Verify] アイコンをクリックして、選択したセカンダリ サーバへの接続を確認します。接続に関する問題がある場合は、先に進む前に修正します。

**ステップ 7** ツールバーで、[Stop] アイコンをクリックして、選択したセカンダリ サーバを停止します。



(注) Install Manager はスタンドアロン アプリケーションです。指定された設定は保存されず、永続的ではありません。Install Manager GUI を終了すると、設定は失われます。

## 関連資料

関連項目	参照先
単一の DCNM-LAN サーバの配置と DCNM-LAN サーバクラスタの配置	『Cisco DCNM Installation and Licensing Guide, Release 5.x』
サーバクラスタ情報の表示	第 22 章「クラスタ管理の作業」
DCNM-LAN データベースのバックアップ、クリーンアップ、および復元	第 29 章「Cisco DCNM-LAN データベースのメンテナンス」



## DCNM-LAN サーバの起動と停止の機能の履歴

表 28-1 は、この機能のリリースの履歴です。

表 28-1 DCNM-LAN サーバの起動と停止の機能の履歴

機能名	リリース	機能情報
サーバ クラスタの起動と停止	5.0(2)	サーバ クラスタの起動と停止のサポートが導入されました。

